

平成 23 年 2 月の解説（週間天気予報）

【2月の天候状況】

上旬は、冬型の気圧配置が持続せず低気圧が日本付近を次々と通過し、全国的に天気は短い周期で変化しました。中旬は、低気圧が本州の南岸を周期的に通過して、天気は数日の周期で変化しました。また低気圧の通過に伴い太平洋側でも雪が降り、積雪となった所もありました。沖縄・奄美は前線や寒気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。下旬は、低気圧が日本付近を周期的に通過し、天気は数日の周期で変化しました。25日にはサハリン付近の低気圧に向かって南風が吹き、関東地方では春一番を観測しました。

月を通しての日照時間は、北日本と東日本から西日本の日本海側と沖縄奄美では平年より多く、特に北日本から東日本の日本海側ではかなり多く、月間日照時間の最大値を更新した気象官署がありました。降水量は、北日本から西日本の日本海側で平年より少なく、特に東日本の日本海側ではかなり少なく、月降水量の最小値を更新した気象官署がありました。東日本から西日本の太平洋側は平年より多くなりました。気温は、全国的に平年より高く、特に北日本ではかなり高くなりました。

【2月の検証結果】

降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より2ポイント高い73%でした。地方毎の適中率は、北陸、沖縄地方でそれぞれ6ポイントと8ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、北、東日本で例年より0.1から0.5小さくなりましたが、その他の地方はほぼ例年並みで、全国平均は0.1小さく2.3になりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差も全国的に例年より0.1から0.6小さくなり、全国平均は0.3小さい1.9になりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4月の週間天気予報の利用にあたって】

4月になると日に日に気温が上昇していきます。東京では、4月1日の日最高気温の平年値は15.4ですが、月末の30日には21.1まで上昇し、4月の後半は最高気温が20を超え春真っ盛りです。しかし4月には「花冷え」という言葉があるように、しばしば寒の戻りがあります。昨年（2010年）の4月14日から18日にかけて全国的に低温となり、17日には関東地方の平野部でも降雪や積雪を観測しています。このときは、4月12日に低温に関する気象情報が発表しました。気象庁はこのように低温が続く農作物等にも被害が予想されるような場合に、気象情報で注意を喚起しています。